

## 令和2年度 まちぐ（る）み企画実施業務報告書

1. 業務名 令和2年度 まちぐ（る）み企画実施業務
2. 実施場所 まちぐみラボ（八戸市内丸一丁目3番16号 ほか）
3. 業務内容 八戸市中心商店街を舞台に、多くの市民参加によるイベント等を通して中心街のイメージを変えるアートプロジェクト「まちぐみ」事業を実施。
4. 期間 令和2年4月1日 ～ 令和3年3月31日
5. 実施内容

### （1）南部菱刺しを活用した市民参加企画の実施

#### 【まちぐみ presents はっち×南部ひしぎし】

はっちの備品の椅子に南部菱刺しを施す市民参加型アートプロジェクト。市民や観光客が、南部地方の伝統工芸「南部菱刺し」を気軽に体験する機会をつくる。また、はっちインフォメーションにあるパーテーションに菱刺しを施す取り組みも今年度から実施。

#### ■開催日

2020年6月13日（土） / マスクにひしぎししてみよう！

（八戸工業大学第二高等学校 情報ビジネスコース授業）

2020年9月20日（日） / ※感染症予防のためマチニワで実施

2020年11月21日（日）～23日（日） / 手しごと展

随時対応 / はっちのパーテーションに南部ひしぎし（組員）

#### ■所感

4年目となるこのプロジェクトは、はっちの備品（椅子）に通りがかりの市民や観光客が直接南部菱刺しを施すというもので、完成した椅子は館内で備品として使用されるため、自分が関わった（刺した）作品に再会することもできる。故に、はっちという場に付加価値をプラスするプロジェクトでもあると言える。

また、多くの人がバトンタッチしながら一つの作品を作り上げていくスタイルは、まちぐみ立ち上げ初期から続けている活動スタイルで、このプロジェクトではその参加範囲を組員以外にも拡張させているという意味で、公共の役割を十分果たしている。日本建築学会で採用された早稲田大学の論文が、このことについて詳しく論じている。

「椅子に刺す行為を見せること」と「制作のプロセスを見せること」や、短時間だけでも1段刺すだけでもそれぞれの都合に合わせて参加できる仕組みが、予約手続きなどの余計な手間なく参加者獲得に成功している要因だ。

参加者の中には、南部菱刺しをこのプロジェクトで初めて体験したことがきっかけで、もっと南部菱刺しを勉強したいと”西野刺しっ子の会”に入会した女性や、イベント日程に合わせて東京から八戸旅行に来たという方、他にも「今から刺してもいいですか？」とイベント日ではない日にはちちに来て1人もくもくと作業して、すでに何脚も完成させているリピーターもいる。

敷居が高い印象のある伝統工芸が、より身近に感じられるきっかけを作り、菱刺しファンを作るための入口でありたいという企画時の思いが現実のものとなっている。

それに加えて、多くの市民によって作られた椅子が、はっちは”市民が主役”の施設であることを現す一助になっていると同時に、はっちへの親近感やはっちは”自分ごと”という感情を市民の中に作り出すことに成功しているとも言える。

今年度は、はっちインフォメーションに置いてあるパーテーションに刺すという新しい取り組みを始めた。

これは、はっちインフォメーションの女性陣から「これにも刺して欲しい」と提案をいただき「はっちのパーテーションに南部ひしぎし」が始まった。今年度はお試しの意味もあり、まちぐみひしぎし部が空いた時間に進めているが、来年度は椅子と同様にひしぎし部員が優しく指導しながら、一般市民にも制作に参加していただく予定。

毎月第3日曜日。組員にとってこの時間この場所は「今日あそこに行けば誰かに会える」という場にもなっている。「久しぶり～、元気だった～？」という会話を聞くことがとても多く、彼らにとってのサードプレイスならぬフォースプレイス的な「居場所」になっている。

全国的にコミュニティや場づくりが課題・テーマになっている時代において、費用対効果を見てもとても有効な活動である。

はっちの椅子に刺す行為を見せたことと、完成した椅子をはっちで使っていることが、多くの目に触れ、多くの人の「脳」を活性化した。

こぎん刺し業界では、ワンポイントを刺した椅子を制作・発表し、茶こしに刺して楽しめる商品を開発・販売し始めた。青年会議所のイベントでは、メッシュのキャップに刺すワークショップを実施。

「あそこにも刺せるんじゃない？」「そういえばここにも」と、「布に刺すもの」という固定概念を完全に払拭した。はっちインフォの女性たちの発想も同様だ。

『今までの見方や考え方に刺激を与える、新し発想で変化のきっかけを与える。』これこそが、アートあるいはアーティストのなせる技なのだと思う。

地元紙で南部菱刺しの連載が始まった（3月に終了）ことも少なからず影響を与えた結果かもしれない。まちぐみひしぎし部だけでなく、まちぐみと一緒に活動した八戸工大二高もそこで紹介された。八戸工大二高は今年度、まちぐみとの活動が”八戸・学生&高校生まちづくりコンペ”で最高賞の市長賞を受賞した。

マスクにひしぎししてみよう！



学生がマスクにひしぎしする様子



はっちの椅子に南部ひしぎし



参加者がひしぎしする様子



はっちのパーテーションにひしぎし



組員（ひしぎし部）の様子



## (2) 南部せんべいをテーマとする学生を対象とした企画の実施

### 【高校生とつくる南部せんべいカフェ】

「南部せんべい」をテーマに高校生のアイデアを活かした新メニューの開発やワークショップ・試食会などを実施し、商品の生産・販売などを高校生や組員が主体となって運営するカフェを中心商店街のイベント「はちのへホコテン」や「まちぐみ展6」などでオープン。

まちぐみ展6では、感染症予防対策の新たな試みとして、個室型カフェからオンラインで注文を受け、はっち館内のパスタ店 Rit. とのコラボメニューが食べられる特別版として実施。

コロナ禍のため例年実施していた市内高校へのチラシ配布は行えなかったものの、今年度の参加希望者として新たに6名の高校生が活動に参加した。

## ■開催日

2020年8月30日(日)/南部せんべいマルシェ(主催:八戸商工会議所主催)

2020年9月27日(日)、10月27日(日)/はちのへホコテン

2020年10月11日(日)/「体験、発見、Hachinohe Style~伝統文化で、八戸にと  
きめこう~」(主催:八戸青年会議所)

2021年3月6日(土)、7日(日)、13日(土)、14日(日)、20日(土)21日(日)/まちぐみ展6

## ■所感

4年目となるこのプロジェクトは、地元の高校生が南部せんべいを使った新しいスイーツを考案し大人たちと一緒に完成させ、成果発表として3月に出店。その後も”はちのへホコテン”で出店するというもの。

今年度は新型コロナウイルスの影響でイベント出店は少なかったが、昨年度から参加してくれている八戸高校3年女子が、自粛期間中や受験勉強の合間に考案した”南部せんべいきッシュ”を完成させた。

また、はっち2階の生パスタ店 Rit.さんから一緒に活動したいとお声がけいただき、コラボレーション企画を3月に実施。長年の目標であったプロの飲食店とのコラボが現実のものとなった。

3月の出店(6日間)は、高校生が三密や接触を極力避けられる”個室型カフェ”を新しく制作して、安全安心な形で無事終了。連日完売だった。

今年度は、八戸工大二高1年生5人と八戸東高2年生1人が新しく活動に参加登録。3月の出店時の活躍は目を見張るものだった。来年度も継続してもらえるように連絡を密にしたい。

このプロジェクトは、南部せんべいを切り口にしてはいるが、南部せんべい業界を元気づけたいということが1番の目的ではない。

高校生と大人が同じ空間で同じ時間を過ごしながら、一つの目標に向かって活動する『場』を作ることによって、いつかこの地を出て行ってしまおう高校生が、”出ていく前に”地元の普通の大人たち(先生や保護者以外)とふれあい、その後も継続できる関係をつくるのがこのプロジェクトの1番の目的だ。

市外・県外から帰省したときに、会いに行ける大人、悩んだら気楽に相談できる大人を地元を持っている。この安心感と親近感を育むことを目的としている。地元に戻ってくるのが選択肢の一つであり続けられるように。

進学や就職で市内に残った卒業生たちは、今もせカフェに”大人組”として参加してくれている。そのうちのひとりには”新店長”を買って出て、イベント日には高校生に心構えを指導し、シフト交代まで考えてくれている。

高校1年生時から3年間スイーツづくりの大黒柱として活躍し、弘前の大学に行っている卒業生は、今でも新メニューを考案・試作して帰省時に持ってきてくれる。

誰かが帰ってきたという情報が入れば、誰彼なく”おかえりなさい会”が企画されみんなでお食する場が生まれる。

ズームでの会議にも遠方から参加してくれる卒業生も多く、近況が聞けて身近な存在に感じることができる。大人は卒業生が就職した飲食店に、様子見がてら食べに行ったりする。

1年目2年生だった初期メンバーは今年成人した。大人たちとアルコールをたしなむ会が時々行われているようだ。

このように、企画当初の目的が目に見えて現実のものとなっている。

この若者たちは口を揃えて「八戸がいい」「八戸に戻ってきたい」と言っていることを八戸に住んでいる大人としてとても嬉しく思う。それは、せカフェと一緒に過ごしてくれている大人たちのホスピタリティが大きな要因としてあるのだと思う。【Uターン予備軍製作所】の活動は来年度も続く。

八戸南部せんべいマルシェ



Hachinohe Styleの様子



はちのへホコテン



出店の様子



まちぐみ展6で出店の様子



販売商品（まちぐみ展6）



### (3) 縄文をテーマとする企画の実施

#### 【縄文フェス参加／縄文グッズ企画】

「縄文文化」をテーマに関心を高めてもらうため、縄文フェス準備室をはっち館内に設置し縄文情報を発信した。また、組員のアイデアを活かした縄文に関するグッズを制作した。

#### ■開催日

2020年10月14日(水)～22日(木)、27日(火)～29日(木)計12日間  
/八戸縄文フェス準備室（はっちひろば、シアター1前）  
2020年11月1日（日）/縄文フェス（マチニワ）

#### ■所感

史跡是川石器時代遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に推薦されたことをもっと盛り上げよう！と立ち上がった市民有志からお誘いを受けて、団体立ち上げから参加した縄文フェス実行委員会。今年度は第2回目の”縄文フェス”開催に協力した。

1日限りのイベントを目にする市民の数は限定的と考え、準備のプロセスを見せながら、縄文に関するさまざまな情報を発信する”縄文フェス準備室”という『場』をはっち1階に作った。

そこでは、縄文フェスの会場となるマチニワに飾る装飾を作る作業空間を用意し、実行委員会員やまちぐみ組員、時にははっちのボランティアガイドさんや通りがかりの市民が都合に合わせて大型垂れ幕を手作りしたほか、縄文に関する資料の配布や興味を示してくれた来館者に世界遺産になる（かもしれない）ことを説明するなどの周知活動を行なった。

布にペンキで文字やイラストを塗る作業は、手づくり暖簾やのぼりを数多く作ってきたまちぐみの得意分野であり、それを知る実行委員会からの要望でもあった。

八戸市の宝である縄文文化が、世界遺産というとても大きな”世界の宝”になろうとしている時に、市民が他人ごとでいるように感じられる今の状況をととても悔しく

思いながら、「自分たちにも何かできることはある」と勇気を持って一步を踏み出すこと、「まんずやってみる」ことを大事にしているまちぐみの考え方を体現した『場』であり『機会』だったと言える。

縄文フェス当日は会場装飾の他に、まちぐみクリエイティ部のメンバーがそれぞれの得意分野を活かして手作りしたオリジナル縄文グッズを販売するショップを出店。来場者と楽しくふれあいながらイベントを盛り上げた。売り上げも満足いくものだったようだ。

他の出店団体とのコミュニケーションもあり、まちぐみの一面を知ってもらう機会にもなった。

来年度（今年）は、正式に世界遺産登録が発表されるため、それを祝うフェスを開催する予定で、まちぐみも参加する。（予定）

八戸縄文フェス準備室



垂れ幕塗り体験の様子



縄文フェス グッズ販売



縄文フェス グッズ販売



#### (4) まちぐみ活動展示の実施

##### 【まちぐみ展6の開催】

令和2年度の活動内容をわかりやすく展示した「まちぐみ展6」を八戸ポータルミュージアム1階ギャラリー1で開催。

2020年度の活動を振り返るとともに、組員が中心となり実施した活動内容の展示をSNSの記事などと併せて展示。期間中の土日（計6日間）は「高校生とつくる南部せんべいカフェ」を館内のパスタ店 Rit. とのコラボメニューで実施。

## ■開催日

2021年3月6日(土)～3月21日(日) ※3月9日(火)は休館日

## ■所感

6回目のまちぐみ展では、クリエイティ部やひしざし部、まちぐみ大学など、各組員が展示を担当。それぞれの特色が出た展示となった。

まちぐみ大学の展示では、講義の様子をまとめた動画がグループ放映され、大学の雰囲気を知っていただく機会となった。

クリエイティ部のミニ山車は、大人から子どもまで立ち止まって見入る方が多い人気作品だったほか、部員の手作りオリジナルの縄文グッズ販売も行なった。

ひしざし部は、現在取り組んでいる“はっちのパーテーションに南部ひしざし”を展示。期間中7日間ほど公開制作を行った。イスと同様に珍しさや特異性が魅力のようで、通りがかりのお客様が声をかけてくださることも多かった。椅子もパーテーションも、公開制作&市民参加の手法は、南部ひしざしについて多くの人に知っていただくのにとても有効だと思う。

その他、1年間の活動別に資料や写真の展示をしたが、八戸工大二高や八戸北高との活動や早稲田大学の論文、仙台の大学生団体『東北若者10000人会議』がまとめてくれた取材レポート、セカフェなど、例年同様学生との関わりが多かったように思う。

最後に、コロナ禍で社会の動きが止まった頃、空いた時間にはっちスタッフがまとめた“全国まちぐみ組員分布図”は、『目に見える形』で活動を発信するための新たなツールであり、武器として活用していこうと思う。

まちぐみ展6



まちぐみ展6







## 令和2年度 まち（る）ぐみ運営業務報告書

1. 業務名 令和2年度まち（る）ぐみ運営業務
2. 実施場所 まちぐみラボ（八戸市内丸一丁目3番16号 ほか）
3. 業務内容 八戸市中心商店街を舞台に、多くの市民参加によるイベント等を通して中心街のイメージを変えるアートプロジェクト「まちぐみ」事業を実施。
4. 期間 令和2年4月1日 ～ 令和3年3月31日
5. 実施内容

### （1）市民集団「まちぐみ」及び「まちぐみラボ」の運営

まちの活性化のための活動に興味を持ち、自由に参加する市民の集団「まちぐみ」加入者と共に、中心商店街や地域との交流を図りながら、新しいコミュニティや中心街の賑わい創出につながるような活動を展開。

市民集団「まちぐみ」の活動に関する企画・運営や組員募集、まちぐみの活動内容等の広報及びまちぐみ加入者や市民が集まり活動する場や中心商店街・地域との交流の拠点としての「まちぐみラボ」の運営。

令和2年度は、感染症予防として活動日数が減少したが、組員により70日間ラボをオープン、約385名（延べ人数）がラボを訪れた。

オンラインを使用した定期会や交流会を実施したことにより、組員同士の情報交換・交流の機会となった。

まちを元気にしたい！まちで楽しいことがしたい！という方々が、まちぐみ組員として加入。ニックネームとまちぐみで活かしたい得意技等の登録で誰でも加入可能（1,000円でTシャツ購入、顔写真撮影あり）。

令和2年度は22名が新しく加入し、令和2年3月末で加入者513名となる。

情報発信としてまちぐみのホームページを作成。活動内容を紹介するため、日常のラボの様子やイベント開催時の様子を定期的にまちぐみブログや個々のSNSで発信。

また、組員へはイベント情報等を「まちぐみ通信」としてのメールなどで情報発信。

手入れ会の様子



オンラインでの近況報告



## (2) 中心商店街との連携企画

まちぐみラボが立地する本八戸駅通りや中心街で連携した企画を実施。

### ① ブルーフラッグプロジェクト [144カ所設置]

設置作業：2020年4月25日（土）～7月31日（金）

### ② 六日町の鮮魚店 福真のすだれ作成 [3本作成]

作成期間：2020年8月12日（水）～8月28日（金）

## (3) 組員の自主企画

組員発案の企画にまちぐみ組員が協力し講師役で参加した。

### ③ オンラインまちぐみ大学 [8講座]

- ・ オープニング企画 海士町×まちぐみ オンライン交流会／2020年9月21日
- ・ 第1回オンライン工場見学～たたみの民と～／2020年10月17日
- ・ 第2回 南部ひしざし、どこに刺す？／2020年11月15日
- ・ 第2.5回 ひろし' アトリエ オンライン垂れ流し配信／12月12日
- ・ 第3回 初代せかフェメンバー参加！南部せんべいクリスマスレポ'会／2020年12月20日
- ・ 第4回 へんなものを作ってあそぼう／2021年1月31日
- ・ 第5回 修了式～学長キムがまちぐみを語る～／2021年2月14日
- ・ 第6回特別講義 東方悠平さんとわちゃわちゃする会／2021年3月2日

### ① ブルーフラッグ設置



### ① ブルーフラッグ設置の様子



### ② 福真のすだれ3種類



### ② 納品時の様子



③まちぐみ大学「オンライン工場見学」



③まちぐみ大学「へんなものを作ってあそぼう」



まちぐみ大学 チラシ



**プログラム (全5回)** ※講座内容は変更する場合がございます。

- 0 オープニング企画**  
まちぐみ × 海士町オンライン交流会 (済)  
9/23 (月) (開催終了)  
高森南海士町から届いた山盛りのサザエを美味しくいただき、オンラインで乾杯しました。
- 1 オンライン工場見学～たみみの民と～ (済)**  
10/17 (土) 9:00～  
まちぐみ組員もりんの原産である豊田の工場を見学します。  
日本の生活文化として馴染みが深い豊の、もっと深いところへ潜入。  
豊業界の未来のことや、豊の産材を使ったグッズのアイデアを考えたりします。
- 2 南部ひしごし、どこに刺す?**  
知る人ぞ知る南部地方の伝統刺繍、南部刺し。  
実は針と糸と刺すだけじゃなく、刺す場所も重要です。  
基本が分かればあとは自由なんだ。自由に刺せば楽しい。  
※他人のものには勝手に刺しちゃダメだ。
- 3 秘伝直伝、南部せんべいクッキング!**  
南部せんべいの原料はとってシンプル。小麦と塩と水だけ。だからアレンジし放題。  
やろうと思えばスイーツだって出来ちゃうんだ。なぜやる人は少ないけど。  
まちぐみで活動中の「高校生とつくる南部せんべいカフェ」のメニューから、  
うちでも出来る、南部せんべいスイーツのレシピを公開しちゃいます。
- 4 へんなものを作ってあそぼう**  
土師の妖怪「ドキドキさん」が、ものつくりのアイデアを教えてくれる。  
へんなものは作り作るまちぐみクリエイティブ部のシークレットものつくり授業。
- 5 学長キムがまちぐみを語る**  
学生時代からなんかモヤモヤしたものを抱えて悩まながらまちぐみに加入して、意外就職したものの1年でリターンしてまちぐみに復帰したキムが、いろいろな想いを語るらしい。

**必要なもの**  
PC やスマホ、iPad 等  
使用方法等は参加者に別途メールでお知らせします。

**参加方法**  
email: machigumiuniversity@gmail.com  
①組員番号②名前 (組員ニックネーム)③希望する講座を  
上記のメールアドレスまでお知らせください。  
講座詳細はまちぐみホームページ内、まちぐみ大学ページへ。

**応募締め切り: ホームページ参照**  
**対象: まちぐみ組員とその仲間たち**

■所感

新型ウィルスの感染により、みんなが集まって緩やかに関わりながら活動する今までのスタイルが昨年3月から難しくなった。

しかし、そんな中でも知恵を絞り工夫した結果、例年よりも多くの収穫があった印象を持っている。

今という状況からの発想で新しく生まれたものもあれば、こんな中でもできることを実

行したり、今の状況下でもできる形を探し工夫しながら継続したり、また今までの活動が外部機関から評価されたり。

『小さくても具体的に何かを成し遂げることが自信となり、その体験こそが”まんずやってみる”意欲や原動力につながる。』

まちぐみ 7 年間で培ってきたこの”空気”が組員に浸透し始め、それが滲み出たアクションが目立った 1 年だった。

○20 代の若い組員がリターン後の想いを形にした”オンラインまちぐみ大学”。

○組員自らの山車組での経験を活かした”ミニ山車制作”。

○これまでの継続が生んだ”はっちのパーテーションに南部ひしざし”と”アベノマスクに南部ひしざし”。

○他県に進学した大学生も参加した”まちぐみオンライン会議”と、そこから機会をいただいた”海士町とのオンライン交流会”。

○まちと直接的に関わり、市民にも間接的に関わりながら進めた”ブルーフラッグプロジェクト”と、それがきっかけで出演した全国放送ラジオや雑誌掲載。

○感染対策のため”個室型カフェブース”を登場させた”高校生とつくる南部せんべいカフェ”。

○数字には現れない意味をわかりやすく言語化し、のちに日本建築学会で採用された早稲田大学の研究論文。

○数年継続して一緒に活動している八戸工大二高は今年度、”ブルーフラッグプロジェクト”に参加し、”アベノマスクに南部ひしざし”は、学校近くの介護施設に寄付された。また”高校生とつくる南部せんべいカフェ”では 1 年生が大活躍。いずれも新聞やテレビニュースで紹介された。これらの活動が評価され、彼らは”八戸・学生&高校生まちづくりコンペ”で最高賞の市長賞を受賞した。

○”せカフェ”の卒業生は、進学・就職した今もまちぐみに参加し、帰省すると必ず会いに来てくれる関係が定着。

○まちぐみで出会った組員同士の結婚（3 組目）。

など、「なんでもやっていたいんだ」と思える場を継続的に維持してきたことによって、コロナ禍にも対応可能な”柔らかい脳”で考えた具体的な動きや副産物があった。

その影には、はっちスタッフの継続的なサポートがあり、イレギュラーな活動にも柔軟

に対応してくれるはっちの関わり方が、これら全てを可能にしてくれている。それがあからこそ「なんでもやっていいんだ」という安心感を持つことが可能となり、自由な発想で具体的に動き出そうと前向きになる原動力を生み出してくれている。

令和3年3月31日

青森県八戸市南郷大字島守字春日 11  
山本 耕一郎